

H・I・T のご案内

(避難所イメージトレーニング)

我が国では、大災害による甚大な被害が毎年のように発生しています。これらの被害を最小限に止めるためには、国民一人ひとりに加え地域ぐるみの対策が重要で、今や減災対策への関心は全国的に高まっています。

東日本大震災は、数多くの教訓を残しました。中でも被災者は避難所で過酷な生活を強いられました。しかし生活再建への意欲を持ってもらうためには避難所の運営は住民主体で行うのが望ましく、そのためには事前に「避難所生活運営計画」を作成しておくことが不可欠です。

当機構では減災対策に興味を持ってもらい、地域で助け合う避難所運営計画作成の前提となる研修を「H・I・T（避難所イメージトレーニング）」と名付け重点事業としています。この事業はすでに多くの自治体で実施していただき、大きな成果をあげています。被災者の生活支援の原点となる避難所対策の推進にご協力させていただきます。

当社団の研修・講演等の実績

- ・ 避難所開設・運営ワークショップ
- ・ 要援護者支援対策（ワークショップ）
- ・ 巡回ワークショップ「むすび塾」
- ・ 災害対策本部設置訓練（ワークショップ）
- ・ 中越防災研修講座（座学/ワークショップ）
- ・ 市町村防災基本研修（座学）
- ・ 地域の減災力向上「減災塾」企画、運営（座学/ワークショップ）

など

一般社団法人 減災・復興支援機構

東京都新宿区神楽坂2-12-1-205

TEL : 03-5227-6861 FAX : 03-5227-6862

info@gensai-f.net



H・I・Tの進め方



1 基本講演

避難所の基礎知識を学ぶ



コーディネータ

避難所の開設・運営に必要なさまざまな課題を付与

2 ワークショップ1

避難所施設の使い方は？



参加者

各課題について
グループ内で討議し、
必要な対応等を検討

過去の避難所事例にもとづき、よく出てくる課題を提示します。
例：ペットを連れた避難者が来たら？

3 ワークショップ2

- ・ 様々な課題に挑戦！
 - ・ 解説マニュアルを作ろう！
 - ・ 避難所ルールを考えよう！
- * その他ニーズに応じて内容変更

【演習ルール】

- 制限時間の中で、できる課題から取り組む
- たくさんアイデアを出す
- 検討・討議の要点を記録



- ・ 記録用紙に記入
- ・ 付箋と模造紙で表現

検討結果を発表・報告

意見をまとめた結果は、次の担当者への引き継ぎ資料とします。

解説と講評



- 課題の解決策について具体的にアドバイスします。
- 日頃の活動方法についても提案します。



- ◆ 方法：ワークショップ形式
 - ・ 1グループ 7~8人程度でグループを構成
 - ・ 各グループでリーダー、記録係などを決めてグループ討議を行う
- ◆ 参加対象：自治体職員、住民、学校関係者→誰でも参加できる！
(混成チームで取り組めるとベター！)
- ◆ 参加人数：特に人数は問わない。ただし部屋は1箇所がベスト。
- ◆ 演習内容：学校の使い方、集団生活時の運営組織及び生活ルールの必要性についての理解
- ◆ 演習時間：約3時間程度は必要
- ◆ 当日の準備品：学校の地図などであまり多くない。(事前の準備も比較的容易！)

※ 避難所生活演習は自分たちの日常生活をイメージすること